

2018年度 北京師範大学留学報告書

留学先：北京師範大学

実習期間：8月27日（月）～1月7日（月）

新潟国際情報大学
国際学部国際文化学科
学籍番号：21017116
丸山 紗弥

目次

1	留学先及び実習期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	4
	4 - 1 留学のスケジュール	4
	4 - 2 留学の詳細	5
5	所感	6
6	おわりに	7
	謝辞	7

付録

	留学日誌	8
--	------	---

1. 留学先及び期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学院

期 間：2018年8月27日～2019年1月7日

2. 留学先概要

(1) 大学について

北京師範大学は創立 100 年を超える歴史を持ち、新中国建国後に国家によって設立された最初の教育大学である。北京大学、清華大学、中国人民大学とともに北京四大大学と称されている。現在約 22000 人以上の学生が在学していて教師や教育学の分野で活躍する人材を多く輩出している。その中にはノーベル賞受賞者も含まれている。

対外中国語教育をはじめ、文系・理系の教師人材など多くの分野における人材教育の中核機関の役割を担っている。様々な学部がある中で特に、教育学・心理学・中国史・地理市・生態学の五科は全国トップレベルとなっている。

(2) 大学で行われている教育について

積極的に国際交流を行っている北京師範大学では、日本を含め海外の大学 50 校余りと交換留学プログラムで提携している。留学生の受け入れが多くあるため、中国人学生以外にも多くの国の学生と交流を体験することができる。中国語の授業では言語・文化・習慣などの面から総合的に学習する。在籍する教師は約 1700 名で、そのうち 12% の教師が海外で学位を取得している。中国に加え、その他の国にも精通した専門家として、質の高い留学生教育を実施している。留学生は学期初めにあるクラス編成テストに参加し、自分の中国語レベルに適したクラスで授業を受けることができる。1 クラス 15 人程度の少クラス制のため、一人一人に熱心に勉学のサポートをしてくれる。

3. 留学目的

今回の留学の目的は、中国語スキルの向上や、国際交流、異文化理解はもちろんであったが一番の大きな目的として本当の中国の姿を見たいということであった。私は中国に対してあまりいいイメージを持っていない。現在も日本には反日感情を持つ日本人が多くいる。日本で報道される中国の情報は良いニュースがほとんどない。しかしそんなメディアに植えつけられた中国の印象だけで嫌いというのは間違っていると感じた。だからこそ自分の目で見て、聞いて、感じ、自分が中国に対して抱くイメージが正解なのか・違っているのか、見極める必要があると考えた。他にも、中国には中国人以外の国の人も多くいるため中国しながら様々な国の内情を学べると考えた。そして HSK4 級を留学中に取得するというのも一つの目標である。日本に帰ってきてから受験するのでは、お金も時間も必要とするため、ぜひ中国で HSK 4 級の資格を取得したいと考えている。また、実際に中国へ行き現地で言葉を学ぶ方が力になると思い今回の派遣留学への参加を決めた。

4. 研修内容

以下から研修の内容を記述する。

研修期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4-1. 研修のスケジュール

研修期間中のスケジュールは以下の通りである。

月	日	午前	午後
8	27日	日本を出発	北京に到着・入寮
	28日	銀行口座開設	携帯購入
	29日		入学手続き
	30日		クラス分けテスト
	31日	入学式	
9	3日	授業開始	
	8日		日中交流会
	22日 ～24日	内モンゴル旅行	
10	1日 ～7日	国慶節	
	13日	万里の長城ツアー	
	31日	口頭試験	
11	1日 ～2日	中間テスト	
	10日	HSK試験	
	12日 ～18日	研修旅行	
	25日		日韓交流会
12	18日		新潟県人会
	26日	口頭試験	
	27日 ～28日	期末試験	
1	4日		卒業式
	7日	帰国	

4-2. 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目は以下の通りである。

i) クラス分けテスト

筆記試験と口頭試験の二つがありそれらの結果によって、クラス編成がされる。クラスは国籍問わず様々な国からきた留学生と一緒にいる。

ii) 日中交流会

北京師範大学の日本語学科の生徒が新潟国際情報大学の留学生のために開いてくれる交流会である。この交流会では、私たち国情生が日本で準備してきた出し物や日本語学科の方々が準備してくれた出し物を見る。その後、4~5人のグループに分かれて互いの国の話をしたり、中国の話を聞いたりする。そこで中国人の友達を作って仲良くできれば留学期間中、一緒にご飯を食べに行ったり、勉強を教えてもらったりすることができる。

iii) 内モンゴルツアー

日本語を話せる医師のいるクリニックが主催するツアー。二泊三日と三泊四日のコースがあり、自分で好きな方を選ぶことができる。日本語でのガイドもあり、日本人の方だけが参加できるので安心してツアーを楽しむことができる。乗馬体験やゲルでの宿泊、砂漠に行きラクダに乗ることもできる。日本では体験できないような様々なことがこのツアーに参加すると経験できる。

iv) 万里の長城ツアー

北京師範大学が留学生向けに行うツアー。無料で参加することができる。ツアー参加者がまとまって大型バスに乗り、万里の長城へ行く。

v) 口頭試験・中間テスト・期末テスト

留学生のテストはリスニング・スピーキング・リーディングの三教科である。スピーキングテストには筆記試験の他に、口頭試験がある。授業で習った単語や構文を使って中国語での説明や、先生の問いに答えるテストである。

vi) HSK試験

強制ではないため、試験への参加不参加は自由。参加したいものは自分でネット申し込みが必要である。しかし、日本で受けるよりも安く受験できる。また、会場も北京師範代から近いところにあるため利便性が良い。

vii) 研修旅行 江西

国情生は単位取得のためにも参加が必須。旅費はほとんど大学が負担してくれる。毎年、旅行先は異なる。今年は江西に行き、景德鎮など陶器が有名な観光地を巡り実際に陶芸体験をした。

viii) 日韓交流会

日本人会という北京師範大学に在学している日本人が集まってできた組織が、韓国人会と協力して行った交流会。日本人と韓国人が混ざってチームになり大運動会を行った。中国にいながら韓国語や韓国について理解を深めることができた。中には、日本語を話せる韓国人もいて交流を深めることができた。

xi) 新潟県人会

北京を中心に中国で働いている新潟県出身の方や、新潟にゆかりのある大人の方々が二ヶ月に一度集まって交流を深め、意見交換をする食事会。中国と新潟の関係や、北京で行っている新潟の活動など真面目な話から、おすすめの日本料理のお店などためになる話まで様々な情報を聞くことができる。今後の就活にも役に立つような話が聞けて良い経験になった。

5. 当初の目的・目標への達成度

今回の研修の目標達成度について、それぞれまとめる。

i) 中国語のスキルアップ

中国語のスキルアップの面について述べると、日々の授業では全て中国語で行われるため留学当初はまったくと言っていいほど聞き取ることができなかった。しかし、授業の予習・復習を中心に勉強をしていくと少しずつではあるが先生の言っていることを聞き取れるようになり、自分の意見も話せるようになっていった。クラスメイトとも、コミュニケーションを取れるようになり毎日の授業が楽しくなっていった。また、目標としていたHSK4級も無事取得することができた。

ii) 異文化理解

留学中には、中国の様々な地域に行くことができた。主に、私たちの大学がある北京はもちろんのこと他にも内モンゴル・江西に行った。それぞれの地域で生活様式や天候・気温など大きく違った。ツアーや日々の生活から中国という国を理解することができた。

iii) 本当の中国の姿をみる

この派遣留学に参加すると決めた最大の目的は、メディアからの情報のみで構築された私の中での中国の悪い印象を払拭するためであった。今現在、留学を終えて一番に感じることはもう一度中国に行きたいということだ。そう思えるようになるほど、中国という国を好きになることができた。日本に比べるとまだまだ未発達な部分は大いにあるがそこも含めて中国という国を受け入れられるようになった。しかし、私はこの短期留学で中国を熟知できたとは思っていない。今後も中国について、さらに理解を深めるために中国について学び、可能であればもう一度中国に足を運びたいと考えている。

6. 反省・課題

20年間生きてきた中でたった4ヶ月であったがこれほどまでに充実した日々を過ごせたことはない。毎日の生活が学びに繋がっていた。全てが楽しいと感じたわけではないが、辛いことも、苦しいことも全て学びの一種だと思うことで乗り越えることができた。中国語の学習についても、留学で学んだ知識を忘却することのないように引き続き学習していきたいと思っている。

謝辞

今回、留学するにあたってたくさんの人にお世話になりました。留学前指導をしてくださった佐藤先生、區先生、参加者の面倒をみてくださった黄薇さん、北京師範大学で指導してくださった先生方、その他大勢の関係者の皆様に感謝申し上げます。また、新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、今回の派遣留学への参加が実現しました。たくさんの方の貴重な体験をさせていただいたことに心から感謝いたします。

付録：研修日誌

8月28日
銀行口座開設・携帯購入
内容 ・中国銀行に行き、口座を開設する ・留学中、中国で使う携帯を購入する

所感

現在の中国は電子マネーが主流になっているため、北京についてすぐ電子マネーが使えるように、銀行口座の開設が必要になる。多少の時間はかかるが電子マネーが使えるようになると、留学中の買い物がとても便利にできる。銀行口座を開設するためには、中国にて利用

可能な電話番号が必要となるため、現地で携帯電話を買う必要がある。日本と違い比較的安く購入できる。

8月30日
クラス分けテスト
内容 ・筆記試験と口頭試験の二種類

所感

クラス分けテストでは 101 教室に入れるようにと指示が出ていたので、自分の中国語のレベルが 101 教室に達しているか不安だった。しかし、本学の学生は皆、無事に 101 教室に入ることができた。私のほかに 3 人国情生がいたので心強かった。口頭試験では、書かれた文章を読み、中国語で簡単なやり取りをした。とても緊張していたが口頭試験を担当してくれた先生は優しくて安心した。

9月3日
授業開始
内容 ・一日 2 コマの授業（读写/听力/会話） ・三種類の授業にプラスして週に一度一コマ補講があるが参加は自由 （補講の時間は先生が教室にいてくれるので質問が自由にできる）

所感

一番初めの授業は、まったく聞き取ることができなかった。また、皆がわかっているところは英語で説明してくれるのだが、その英語もすべて理解できるわけではなかったので非常に焦った。しかし、クラスメイトは皆とても優しく不安そうにしていると声をかけてきてくれて仲良くなれた。私のクラスには様々な国の留学生がいた。主にアメリカ・イタリア・韓国・ブルガリア・アイルランド・インドネシア・サウジアラビアである。授業をする上で、中国以外の国の内情も学べた。クラスメイトとは留学中、一緒にお出かけをしたりご飯を食べに行くなどとても仲の良い関係を築くことができた。

9月8日
日中交流会

内容

- ・北京師範大学の日本語学科の生徒との交流会
- ・準備した出し物を披露、日本語学科の生徒の出し物鑑賞

所感

日本語学科の生徒はとても積極的に日本語を話してくれた。その交流会で仲良くなった中国人の友達に様々な場所にお出かけをしたり、ご飯を食べに行ったり。一緒にお出かけをする際は中国語で会話したり、日本語で会話して楽しく過ごすことができた。テスト期間前には勉強を教えてもらった。反対に、日本語学科の宿題の添削をしてあげるなど言語パートナーとしても仲良くなれた。

9月22日～9月24日

内モンゴルツアー

内容

- ・1日目 早朝にバスで出発 約9時間かけて内モンゴルへ
乗馬体験やゲルに宿泊
- ・2日目 砂漠に行きラクダ乗り体験・砂漠での遊戯
- ・3日目 恐竜博物館見学・フフホトで火鍋を食べる

所感

日本では絶対に体験できないようなことができた。バスでの長時間移動はとても疲れたが、日本人のみ参加のツアーだったので他大学の日本人留学生とも仲良くなることができた。北京は日によって空気汚染が気になるときがあったが、内モンゴルは空気がとても澄んでいてきれいだった。ぜひ機会があればまた行きたいと思った。

10月1日～10月7日

国慶節

内容

- ・中華人民共和国の祝日の一つ
- ・約1週間の大型連休

所感

この1週間の大型連休を利用して北京の中心観光地を巡った。故宮や天安門を中心に若者に人気の798芸術区にも行った。大型連休ということもあり人が大勢いたが、とても充実

した1週間を過ごせた。

10月13日
万里の長城ツアー
内容 ・北京師範大学が留学生向けに行ったツアー ・往復バスもあり、無料で行けるため多くの留学生が参加

所感

初めての万里の長城は急な階段や、永遠と続く岩の道は非常に疲れたが、改めて中国という国の国土の大きさや歴史の偉大さを実感した。とても良い天気で、紅葉の時期でもあり非常に景色が良かった。

10月31日・11月1日～2日
口頭試験・中間テスト
内容 ・読写，听力，会話の三科目の筆記試験 ・口頭試験は会話の一種であり、授業で習った中国語を使って自分の意見を述べる

所感

留学にきて、初めてのテストで非常に緊張した。テスト前には、今までで一番勉強しているのではないかと思うくらい勉強した。口頭試験が特に緊張していたがなんとか乗り越えることができた。

11月12日～18日
研修旅行(江西)
内容 ・約一週間の研修旅行 師範大学の生徒は参加自由であるが、本学の生徒は単位の関係もあり参加が必須 ・毎年行き先が異なる。今回は陶器をテーマに景德鎮などの観光名所を巡った

所感

研修旅行ということもあり、博物館見学や農村地方への訪問など娯楽ではなく学習が中心

の旅行であったが、陶器体験や世界遺産である三清山への登山など、普段できないような体験ができた。

11月25日
日韓交流会
内容 ・日本人会と韓国人会が考案した交流会 ・赤組と青組に分かれて運動会をした

所感

クラスメイト以外の韓国人との交流は初めてだったので緊張したが、日本に興味を持っている韓国人が多くいて、たくさん話しかけてきてくれた。まずは体を動かして交流することで、うまく言葉が伝われなくても仲良くなることができた。韓国にも遊びに行ってみたいと思った。

12月18日
新潟県人会
内容 中国で働いている新潟県出身の人や、新潟にゆかりのある人が二か月に一度集まって食事をしながら交流を深める会

所感

社会人の方々とお話ができる貴重な機会であった。社会人との交流は私にとって初めてであったため緊張したが、新潟と中国の関係や北京で行っている新潟を宣伝するための主な活動など、色々な話を聞くことができ非常に勉強になった。今後の就職活動をする上でも参考になることが多く、参加することができてよかった。



